700号に寄せて

通 巻 700 号 発 刊 に 際 し て

医報編集委員
(西区・伊敷支部 竹元クリニック) **竹元　雅一**

この度は，鹿児島市医報通巻700号発刊おめでとうございます。しばらくの間，編集委員としてその発行に携わった一員としてお祝いを申し上げたいと思います。

思い起こせば私が医報編集委員へ仲間入りしたきっかけは，当時の担当理事の宇根先生より，医師会のホームページ委員会が医療情報委員会と名前を変え，ホームページ以外の医療情報関連事項についても検討していく会へ装いも新たに再出発するとのことで，コンピューターなどに詳しい人材を委員に加えたいというご意向があり，私に白羽の矢が立ったものと思います。私は当時開業したての時期で開業医の中でも早期にクライアント・サーバー型の電子カルテを導入した施設でありました。微力ながら少しでもお役に立てるのならと承諾することとしました。ところが，「実は・・」と役職をお引き受けした直後に，医療情報委員は医報編集委員も兼ねるとのことで半ば強制的に（言葉が悪くてすみません。）委員を引き受けることになってしまいました。あまり文章力など持ち合わせていない私にとって皆さんがご苦労なさって仕上げた原稿を校正するなどとんでもないことと感じ，委員としてのこれからの活動に不安を感じていたのを思い出します。当時医師会が主に手がけている業務さえもあまり理解していませんでしたので，編集作業の中で医師会活動などいろいろなことを学ばせていただきました。目からうろこが落ちるとはまさにこのことで活動内容を少しずつ理解していった過程を今でも覚えております。医師会報は暇な時間を利用して読む読み物と思っておりましたが，実は医師会としての活動報告の場であり，公文書の記録として保存されていくという一面があるということもその際に知りました。実際，文書として協議した内容が記録されていくわけであり，あとから協議の内容など確認する際に非常に貴重な資料となっています。協議に携わった人は交代しながら変化し時代は流れていくわけですが，そこで決定された事項は後の世代まで引き継いで行くことになり，数年先に当時の協議に全く参加していなかった人たちで集まってその決定事項を再検討するなどということは，医師会活動においてはよくあることだと思います。その際に当時の貴重な討論の結果として残されている医報の存在はありがたいものだと思います。従いまして，今後も後の世代に残す資料として医報は続刊する必要があるものと感じます。その存在意義を考え，私自身としては医報編集委員としての責務は次の編集委員の先生へ引き継いでいるものの今後も編集委員会の活動を応援していきたいと常々思っています。この700号という数字は歴代の編集委員の先生方が紡いできた努力の賜物であり，さらにこれが続刊し，1000あるいは2000号と歴史が続くことを切に祈るものであります。

さて，私自身もまだ医療情報委員は在任中であり，次の委員の先生にうまくバトンタッチできるまでは継続することになりそうです。医報編集委員会に続いて開催される医療情報委員会の一員としてお付き合いをこれからもよろしくお願いします。